



鯖江市中心部の商店街の女性でつくる鯖江おかみさん会は28日、さばえつつじまつり（3日開幕）に合わせ、園児がつくったこいのぼりを商店街に掲げた。観光客に見てもらいたいとしている。

おかみさん会や市観光協会などが企画。こいのぼりは地元鯖江産の生地を使い、縫製は委託。市内6保育園などで園児に図柄を描いてもらった。こいのぼりの長さは約60センチ、幅約20センチで、園児はマジックなどを色づけしたり、折り紙で模様を貼り付けていた。200個出来上がり、商店街の数カ所に飾る。

こいのぼり

ちゆら

手ノキ



薫風に揺れるハンカチノキ=27日、越前町の福井総合植物園プラントピア

トピアで見頃を迎えている。大きな白い葉が薫風にゆらゆらと揺れ、来園者を出迎えている。ヌマミズキ科の落葉高木で、原産は中国の四川省・雲南省付近。花が咲くまでには通常10〜15年

泥んこ笑顔キラキラ

鯖江 田んぼ舞台に多彩催し

鯖江市片上地区の春祭り「第29回鯖江かたかみ春たんぼ」（福井新聞社後援）が29日、同市片上公民館周辺と文殊山で開かれました。家族連れらが多彩な催しを楽しんだ。田んぼを舞台にした毎年恒例の「田んぼリンピック」から拍手や歓声が上が



泥んこになってソフトバレーを楽しむ参加者たち=29日、鯖江市大野町

公民館前広場には飲食ブースが出店。特設ステージでは踊りや太鼓演奏などが繰り広げられた。

大野市角野の九頭竜国民休養地で29日、和泉地区の地層から運び込んだ石から化石を見つけた「結の故郷化石発掘体験」がスタートした。8日まで毎日開かれるほか、10月30日までの土日・祝日も受け付けている。

和泉地区では恐竜やアンモナイト、植物などの化石が数多く発見され、地域の魅力発信へ2014年から市の委託を受け、たNPO九頭竜化石研究会が事業を行っている。会場には化石が出る地区内3エリアの地層から石が運び込まれ、来場者はハンマーでたたいて割り、化石を探した。友達らと体験した石川裕哉君（和泉小6年）は「やり始めてすぐに貝の化石が見つかり、うれしかった」と話していた。

予約は必要なく、1回30分で大人1千円、中学

料回遊バスを運行する。福井鉄道越前武生駅を起点にした北回りと南回りの2本を各日計12便運行する。停車するのは▽福井鉄道越前武生駅▽JR武生駅▽越前そばの里▽和紙の里通り▽岡太神社▽大瀧神社▽万葉菊花園▽御誕生寺▽数寄屋風書院愛山荘▽紫式部公園▽かこことしふるさと絵本館▽タンス町通り▽蔵の辻。

問い合わせは市観光・匠の技案内所 ☎0778(24)06655。(中坪佑香)

漆器まつり

ガンガン撮って

鯖江 3、4日写真審査

「河和田塗 越前漆器まつり」（福井新聞社後援）が3、4日、鯖江市うるしの里会館で開かれるのに合わせ、越前漆器協同組合はフォトコンテストを開く。同まつりの風景や楽しむ人らを撮影した作品を募集する。18日締め切り。

撮影できる場所は原則、同館敷地内。越前塗山車巡行、こども山車引きの撮影は敷地外で構わない。最優秀賞1点（賞金3万円）、優秀賞3点（同1万円）などを選ぶ。応募はカラー、モノクロとも四つ切り、四つ切りワイドプリントで。会場にある応募用紙を添付し郵送する。枚数に制限はない。結果は本紙紙面、同組合ホームページで発表する。

送り先は〒916-1221 鯖江市西袋町37の6の1、越前漆器協同組合。(桑野真吾)

